

終章 『人生夢浪漫—ある税理士の履歴書』 に寄せて

山本 廣一（前加東市長）

「霞に浮かぶ五峰の峰」「しぶきも高き鬮竜の」

母校滝野中学校の校歌にも歌われるふるさとの山と川。山の実りと川の恵みに抱かれて、心が豊かに育まれる環境、それは私がいつまでも大切にしたいと思う風景です。

西村さんは、日々五峰の峰々を仰ぎ、加古川鬮竜灘の滝音が聞こえそうな上滝野の地に居を構えられており、あなたの心の豊かさの源のひとつは、まさにふるさとの景色の中にあると思っています。

西村家とは、父の代からのお付き合いがあり、この一文を寄せさせていただく機会を得ましたのも、古くからの縁を感じずにはいられません。

私も役所に五十年勤めさせていただきましたが、その中でも、特に監査委員として長くお付き合いをさせていただきました。公私ともにお世話になってきましたが、常に感じる西村さんの素晴らしさは、どんなことも熱心に勉強、研究され、その責任をしっかりと果たされるとこ

ろにあると思います。

私と同じ年代に生まれ、病でご苦労されたため、学年こそ一年違っていますが、もし、同級生として、中学、高校と歩んでいられたら、私の成績は確実にひとつ下がっていた、そんな話をさせていただいたことも、西村さんに対する私なりの敬意として受け取っていただければと思っています。

『人生夢浪漫—ある税理士の履歴書』の発刊にあたり、原稿を拝見させていただいたときに、一言一句の言葉の深さに、あらためてその意を強くいたしました。

人生夢浪漫というタイトルを目にしたときに、西村さんが若い頃からよく「夢と浪漫」という言葉を口にされていたことを思い出しています。

古希になられた機会にということでしたが、いつまでも若々しい今の心を持ち続けられ、七十代の夢浪漫、八十代の夢浪漫を謳歌していただきたいと願っています。

また、西村さんが、「一期一会」の大切さを語られていたことも記憶しています。私にとっても西村さんと巡り合えたことは、私の人生の中でも大きな出会いであり、本当に多くのことを学ばせていただきました。

この一冊には、私が学ばせていただいた様々な事柄、夢を追い、そのために努力を惜しまず、ふるさとを愛し、人のために生きること、まさに西村さんの「履歴書」が綴られています。

この書を手にした若い方々が、西村さんの履歴書、メッセージとの一期一会を通して、ふるさとの未来を担っていかうという思いをさらに強くされ、西村さんの夢浪漫がその道しるべとなることを願っています。

加東市の未来を背負う子供らの声弾み行く通学の道

何時いつまでもそうあれば、そこに私は、加東市の、兵庫県の、日本の夢浪漫が大きく実を結ぶと信じています。